

平成21年度
事業計画案

財団法人日本映像国際振興協会

事業計画案

自 平成21年4月 1日

至 平成22年3月31日

財団事業の目的

本財団は、国際映画祭を開催し、次代を担う才能の発掘・育成の助成及び映画フィルムの保存を図るとともに、海外において日本映像の普及宣伝を行い、もって我が国の映像文化の発展を促し、日本映像の輸出の振興を促進させるとともに、国際友好及び文化交流の増進に寄与することを目的とする。（寄附行為第2章第3条）

今年度事業の方針

1. 東京国際映画祭を通じて、映画・映像文化の国際交流の増進を図るという一貫した方針の下、JAPAN国際コンテンツフェスティバル 2009(コ・フェスタ)と連携をとり、海外からの主要ゲスト招聘の強化を目指すとともに、いまや世界的な潮流であるエコロジーの視点から地球環境の保護を訴えることを映画祭の企画に取り込む。
2. 日本の映画・映像コンテンツの海外展開に対する支援事業により、我が国映画・映像文化の国際化を促進する。
3. 財団の将来像の確立に見合う、財団事業の公益性、社会的使命の再検討と効率化。

事業の内容

財団寄附行為第4条に基づき以下の事業を行う。

1. 国際映画祭事業
 - 東京国際映画祭の主催
2. コンテンツ国際振興支援事業
 - 海外映画祭及び映像見本市への展示出品支援事業
 - コンテンツ製作者への国際共同製作支援事業「J-Pitch」
 - 情報発信事業
 - 調査研究事業

1 国際映画祭事業

{東京国際映画祭}

名称： 第22回東京国際映画祭
主催： 財団法人日本映像国際振興協会(ユニジャパン)
期間： 平成21年10月17日(土)から10月25日(日)までの9日間
企画： 自主企画部門、共催企画部門、提携企画部門

- 開催会場： 六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、他に都内各所の劇場・ホール・施設を使用して開催
- 後 援： 総務省／外務省／環境省／(財)JKA／(独)国際交流基金／(独)日本貿易振興
 (予 定) 機構／港区／(社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
 (社)日本映画製作者連盟／(社)映画産業団体連合会／(社)外国映画輸入配給協会／
 モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／全国興行生活衛生同業組合連合会／
 東京都興行生活衛生同業組合／(財)角川文化振興財団／(財)港区スポーツふれあい文化健康財団／
 (財)デジタルコンテンツ協会／(社)デジタルメディア協会／
 (社)日本映像ソフト協会
- 補助・支援： 財団法人JKA(競輪公益資金)／文化庁国内映画祭支援
- 協賛・協力： 団体及び民間企業各社 26
 (予 定)

【主要上映企画】

(1) 「コンペティション部門」(共催：東京都)

本映画祭の主要部門として、映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際文化交流に寄与することを目的に、2009年1月以降に完成した35ミリ長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備選考を経た15本(予定)を期間中上映する。

各作品の上映後に招聘したゲスト(作品関係者)による Q & A を行ない、観客との交流の輪を広げる。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6人(内、日本人2名)で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行ない、10月25日の閉会式会場で東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞を発表し、東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドルを賞金として贈る。併せて東京サクラグランプリ受賞作品には東京都知事から賞状とトロフィー(麒麟像)が贈られる。

また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られる。

(2) 「特別招待作品部門」

国内未公開の話題作品を20本(予定)上映する。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に繋げる。

(3) 「アジアの風部門」

世界の映画界で、最も活気のあるアジア圏の国や地域で製作された作品の中から優れた作品30本(予定)を選び上映する。

上映作品の製作者や作品スタッフを招聘して、国際映像マーケットにも参加してもらい、日本の映像業界との文化交流をはかるとともに、アジア映画の産業の発展に繋げる。

上映作品の中から、アジア映画賞審査委員会により選ばれた1作品に対して「最優秀アジア映画賞」として賞金1万米ドルが贈られる。

(4) 「日本映画・ある視点部門」

活況を増している日本映画を対象に、テーマ別にある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画。個性に溢れた多様性のある作品を8本(予定)上映する。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、賞状と賞金100万円が贈られる。

(5) 「ワールドシネマ」

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未配給の作品など、世界で話題になっている新作の数々をいち早く紹介していく、洋画ファンにとって待望の企画。

(6) 「Natural TIFF」

「エコロジー」や「自然と人間の共生」というテーマに適う優れた作品を上映する、第21回からの企画。本年度も、昨年以上に優れた作品を集めるべく、その詳細を検討中である。最優秀作品に対して「TOYOTA Earth Grand Prix」を授ける。

【関連上映企画】

(1) 「第22回東京国際女性映画祭」(主催：東京国際女性映画祭実行委員会)

東京国際映画祭と同時にスタートした「女性映画祭」も昨年までで21回を数えた。今年も世界各国の女性監督が、未来への誠実な願いを込めて取り組んだ作品を紹介する。

(2) 「ショートショートフィルム フェスティバル」(主催：ショートショートアジア実行委員会)

本年6月開催の「ショートショートフィルム フェスティバル2009」の授賞作品を上映する。

期 日 平成21年10月下旬

会 場 東京都写真美術館 映像ホール

(3) 「みなと上映会」(共催：東京国際映画祭みなと委員会)

港区内の商店会、自治会、町会で結成された東京国際映画祭「みなと委員会」との共催企画。子供から大人まで楽しめる作品の上映とイベントを企画している。

(4) 「コリアン・シネマ・ウィーク2009」(主催：駐日韓国大使館)

今年で9回目を迎えファンも年々増加している。今年も韓国映画を代表する作品の数々を上映する。

(5) 「したまちコメディ映画祭 1n 台東」

下町は多くの芸能人を輩出した町。今年も、浅草・上野を舞台に映画の上映と各種イベントで下町を盛り上げる。9月22日(火)～25日(金)の4日間実施、雷門にレッドカーペット。

(6) 顕彰・助成事業

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ、その他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの風部門における優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)
- ③ 日本映画・ある視点部門における優秀作品に対する顕彰
- ④ 世界の映画界で顕著な功績を挙げている個人に対する顕彰(黒澤明賞)
- ⑤ 批評家育成プロジェクトの入賞者に対する顕彰
- ⑥ フィルムライブラリー活動に対する助成として、国立近代美術館フィルムセンターへ製作者

の承認を得て、優秀作品のプリントや映画資料の寄贈。

(7) 東京国際映画祭公式サイト(<http://www.tiff-jp.net/>)の運営

映画祭に関する全情報の発信基地となる公式サイトであり、東京国際映画祭への作品応募の窓口となり、映画祭参加作品の紹介を行うなど、多目的に機能させていく。オープニング行事のグリーンカーペットのLIVE中継をはじめ、会期中のイベントの様相を動画で配信し、臨場感溢れる映画祭の情報を提供している。

【マーケット企画(TIFFCOM)】

名 称 TIFFCOM2009 Marketplace for Film & TV in Asia

主 催 経済産業省、(財)日本映像国際振興協会、日本映像振興(株)

会 場 六本木ヒルズ 森タワー及びアカデミーヒルズ40F&49F

期 間 平成21年10月20日(火)～10月22日(木) 各日 10:00～18:00

●関連イベント

Tokyo Project Gathering (TPG)

Seminar @ TIFFCOM

●連携企画

国際ドラマフェスティバルin Tokyo 2009

●出展対象

映画、テレビ、アニメーション、デジタルメディアコンテンツ、コミック、出版など

●公式WEBサイト

<http://www.tiffcom.jp>

●TIFFCOM2008実績から

出展団体数(201)、来場登録者数(4, 006)、登録国・地域数(43)

2 コンテンツ国際振興支援事業

(1)海外映画祭及び映像見本市への展示出品支援事業

- 文化庁の委託事業として2003年度(平成15年度)から実施している。
- 「日本映画海外展開支援」では、日本映画や日本の映画製作者が海外の映画祭や見本市に参加するために必要な字幕制作費、渡航費、宣材制作費を支援している。
- カンヌ、トロント、プサン、ベルリン、香港など海外の主要な映画祭の見本市に「日本映画共同ブース」を出展し、日本映画情報センターとして活用し、また日本映画の海外セールス拠点としてスペースを提供している。
- 世界各地の映画祭及び見本市情報を掲載したメールマガジン「ユニジャパン通信」を隔週で発行する。

(2)コンテンツ製作者への国際共同製作支援事業「J-Pitch」

- 経済産業省の委託事業として2006年度(平成18年度)から実施している。

- 国際共同製作を目指す日本のコンテンツ製作者を海外の映像見本市に派遣し、海外のコンテンツ製作者とのマッチングやネットワーク作りを支援している。
- J-Pitchウェブサイトを開設して、日本映画やアニメ、日本の映像関連企業や団体のデータベース「日本映画データベース(JFDB)」を掲載し、また、日本を含む世界主要国の映像産業情報や公的支援の紹介を掲載して、内外のコンテンツ製作者に情報提供を行っている。
- フランス国立映画庁との「日仏映画協力覚書」、韓国・シンガポール・タイ・ベトナムとの「アジア・フィルム・インダストリー・ネットワーク(AFIN)」など、海外主要国の映画振興機関とのネットワークを強化し、コンテンツ製作者の交流事業や情報交換を活性化する。

(3) 情報発信事業

- ①海外向け日本映画ウェブサイト「www.unijapan.org」
 - 財団法人JKAからの補助を受けた当財団の自主事業として2003年度(平成15年度)より運営している。
 - 内外の映画産業関係者に向けたニュースページで、東京国際映画祭やJ-Pitchサイトともリンクし、より広範な情報提供を行っている。
- ②海外向け日本映画年鑑「Japanese Film」
 - 文化庁からの受託事業となっている刊行物「Japanese Film」の編集・発行(3月)と国内外への配布を行っている
 - 平成21年に公開される代表的なアニメを含む日本映画の紹介と、日本映画産業統計、映像関連企業及び団体の住所録を掲載しており、その内容は上記の「日本映画データベース」と連動している。
- ③海外向け日本映画新作カタログ「New Cinema from Japan」
 - 国際交流基金との共同事業である刊行物「New Cinema from Japan」の編集・発行(5月と10月の年2回)と国内外への配布をおこなっている。
 - 5月発行の春号はカンヌ・マーケット、10月発行の秋号はTIFFCOMIに合わせて発行し、最新の日本映画やアニメの情報を有料で掲載している。

(4) 調査研究事業

- ①「文化庁映画週間」の制作事業
 - 2004年度(平成16年度)から文化庁の委託を受けてコ・フェスタのオフィシャルプログラムとして実施している。
 - 東京国際映画祭に会期を合わせて、「文化庁映画賞贈呈式と記念上映会」、「世界映画人会議」、及び地域での映画製作・上映活動に関する「シンポジウム」を開催している。
- ②「ジャパン・フィルム・コミッション」との共同事業
 - 経済産業省からの委託を受けて、2009年(平成21年)4月に発足するNPO法人ジャパン・フィルム・コミッションとの共同事業を実施していく。

- 海外の映像見本市への参加、セミナーの実施を通じて、日本各地のロケーションの海外
広報、海外のコンテンツ製作者とのネットワーク作りを促進していく。
- ③「ベルリン国際映画祭タレントキャンパス」への若手映画人派遣事業
 - 2003 年度(平成 15 年度)より当財団の自主事業として実施している。
 - 世界の若手映画製作者を対象としたワークショップである同企画に、日本の若手映画製
作者を派遣している。

以上